

# III 基本構想

## 1. 都市づくりの理念

本市におけるまちづくりの課題に対応しながら、第六次多賀城市総合計画に掲げる将来都市像「日々のよろこびふくらむまち 史都 多賀城」の実現を目指していくに当たり、本市のこれらの都市づくりの理念を次のように定めます。

### 地域資源と既存ストックを活かしたまちづくりへ ～先人から築いた歴史ある街を、住みやすい街にして未来に引き継ぐ～

この地に「多賀城」が置かれて以来、約 1300 年もの間、本市は伝統を大切にする一方で新しいものを受け入れ、常に時代の流れを意識しながら、多賀城ならではの文化を創造してきました。

都市づくりにおいては、多賀城跡の保護、再生や山王・南宮地区の歴史的な街並み保全を図りながら、新たな市街地の開発や都市施設の整備に継続的に取り組み、利便性と快適性を備えた住みよい都市を築き上げてきました。平成 23 年（2011 年）の東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、工業地域をはじめとした海に近接した地域を中心に、建物倒壊等の甚大な被害を受けましたが、これを契機に、単に都市を再生させるだけでなく、災害に強い安全な都市づくりにも取り組んできました。

このように、都市の魅力・資産を着実に培ってきている本市において、今後、市民満足度を高めていくためには、新たな整備や拡充を図るより、今ある資産を上手に活用し、市民の生活の質を向上させていくことが重要です。市民も、この価値観を大切にしています。第六次多賀城市総合計画策定においては、市民等のべ 1,400 人が参加したタウンミーティングでの市民意見をもとに「拡充から縮充への転換」、「共生」、「共創」の 3 つの軸を設定し、人口減少下の経済が縮小していく社会であっても充実した暮らしや自分らしい生き方を実現することを目指しています。

本市の都市づくりにおいてもこの姿勢を共有し、これまで培ってきた資産を最大限に活用することで、市民が幸せやよろこびを感じる都市づくりに取り組んでいきます。

## 2. 都市の将来像

まちづくりの課題、都市づくりの理念等を踏まえ、本市が目指す都市の将来像を「都市づくりの視点」ごとに定めます。

### 市民が誇りと喜びを感じる都市

多賀城跡等の歴史資源に多くの人々が集まり、本市の歴史・文化を感じています。砂押川や七北田川等の川辺で散歩を楽しみ、中央公園等ではイベントやスポーツを楽しむ市民が溢れています。

### 賑わいが広がる都市

本市の魅力に惹かれた人々の居住が進み、身近な公園等では沢山の親子が遊ぶ姿がみられます。日々の暮らしが充実し、いきいきと働く姿がみられます。

### 快適に暮らせる都市

自動車がなくても、誰もが不自由なく移動でき、ゆとりある居住環境の下で暮らしています。一人ひとりが環境にやさしい暮らしを送っています。

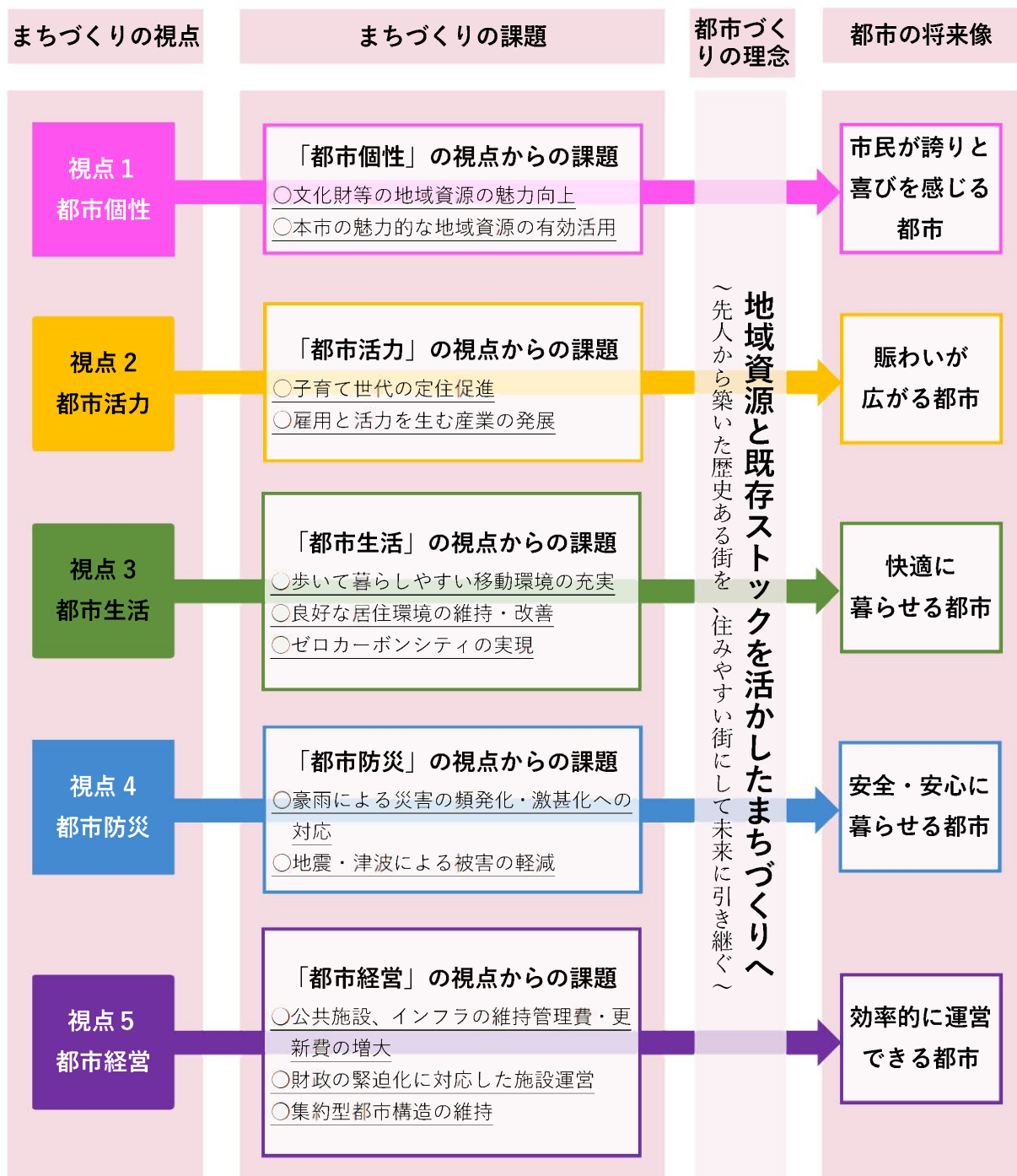
### 安全・安心に暮らせる都市

災害が起こっても防潮堤や排水施設が機能を発揮し、日頃の防災訓練の効果が表れて、市民のいのちが守られています。建物やインフラ施設の地震対策も進み、暮らしの安全性が高まっています。

### 効率的に運営できる都市

大切に使い続けられてきた公共施設やインフラ施設が人々の暮らしを支え続けています。市街地に集約した各種都市機能が生活サービスの効率的な提供に寄与しています。

「まちづくりの視点」から「都市の将来像」にかけての流れは以下のとおりです。



### 3. 将来都市構造

都市づくりの理念及び将来都市像を踏まえ、将来都市構造を以下のように定めます。

市街地は、多賀城駅周辺を中心に、東北随一の文化交流拠点として相応しい機能を有した施設と駅周辺の環境整備を実施して都市機能の増進を図ります。市街地を取り巻く特別史跡多賀城跡周辺の緑地、農地及び樹林地は、豊かな自然環境として保全及び活用を図り、都市環境と調和のとれた暮らしやすい都市を形成します。

また、安全・安心で利便性の高い市民生活の維持するため、物資輸送や各施設へのアクセス利便性を促進するため、市内及び市内外を結ぶ交通軸の形成を図り、本市の経済発展や交流の促進を支えます。

#### (1) ゾーン

##### ■市街地ゾーン

現在の市街化区域、三陸縦貫自動車道多賀城インターチェンジ周辺及び（都）笠神八幡線の沿道を市街地ゾーンとして位置づけます。市街地ゾーンは、各用途地域に合わせた土地利用を基本とし、良好な居住環境の維持や商業機能の充実、産業・工業機能の集積を図ります。

##### ■農地・樹林地ゾーン

本市西部や北西部に広がるまとまった農地や特別史跡多賀城跡周辺の緑地を農地・樹林地ゾーンとして位置づけます。農地・樹林地ゾーンは、優良な営農環境や自然環境の保全を基本としながら、都市計画道路の沿道等において必要に応じて土地利用の転換を検討します。

#### (2) 交通軸

##### ■公共交通軸

本市内の各駅や地域の主要地点を結ぶ鉄道、路線バス等を公共交通軸として位置づけます。自動車を使わなくても快適に暮らせる市民生活を支え、また、本市の観光交流を支える交通インフラとして機能の維持・強化を図ります。

##### ■広域交通軸

本市を南北に貫く三陸縦貫自動車道を広域交通軸として位置づけます。本市の経済の活性化や交流の促進を支えるとともに、災害時における緊急輸送機能の確保を図ります。

##### ■主要交通軸

本市と近隣市町、本市の地域間をつなぐ国道、県道及び主な都市計画道路を主要交通軸として位置づけます。便利で快適な市民生活や交流の促進に向けて道路交通網の形成を図ります。

### (3) エリア

#### ○中心市街地エリア

多賀城駅周辺から（都）八幡築港線（産業道路）にかけての一带を中心市街地エリアとして位置づけます。市民の暮らしを支える生活サービスの集積・維持を図り、本市の暮らしの魅力を高めていきます。

#### ○産業エリア

臨海部の工業地一体を産業・工業エリアとして位置づけます。産業の振興や雇用の確保に向け良好な就業環境の維持・形成を進め、企業から選ばれる魅力的な産業地の形成を図ります。

#### ○歴史・文化エリア

特別史跡多賀城跡から中央公園にかけての一带、国府多賀城駅及び多賀城廃寺跡周辺、多賀城市役所及び多賀城市文化センター周辺を歴史文化エリアとして位置づけます。多賀城駅や国府多賀城駅、多賀城インターチェンジ等の交通利便性を活かし、本市の誇る歴史や文化を発信するとともに、やすらぎと憩いを提供する地区の形成を図ります。

### (4) 拠点

#### ■都市拠点

多賀城駅周辺を都市拠点として位置づけます。当該拠点は、再開発事業により整備された図書館、子育て支援施設等の都市機能が集積し、多様な世代の人々の交流の場の創出を図ります。

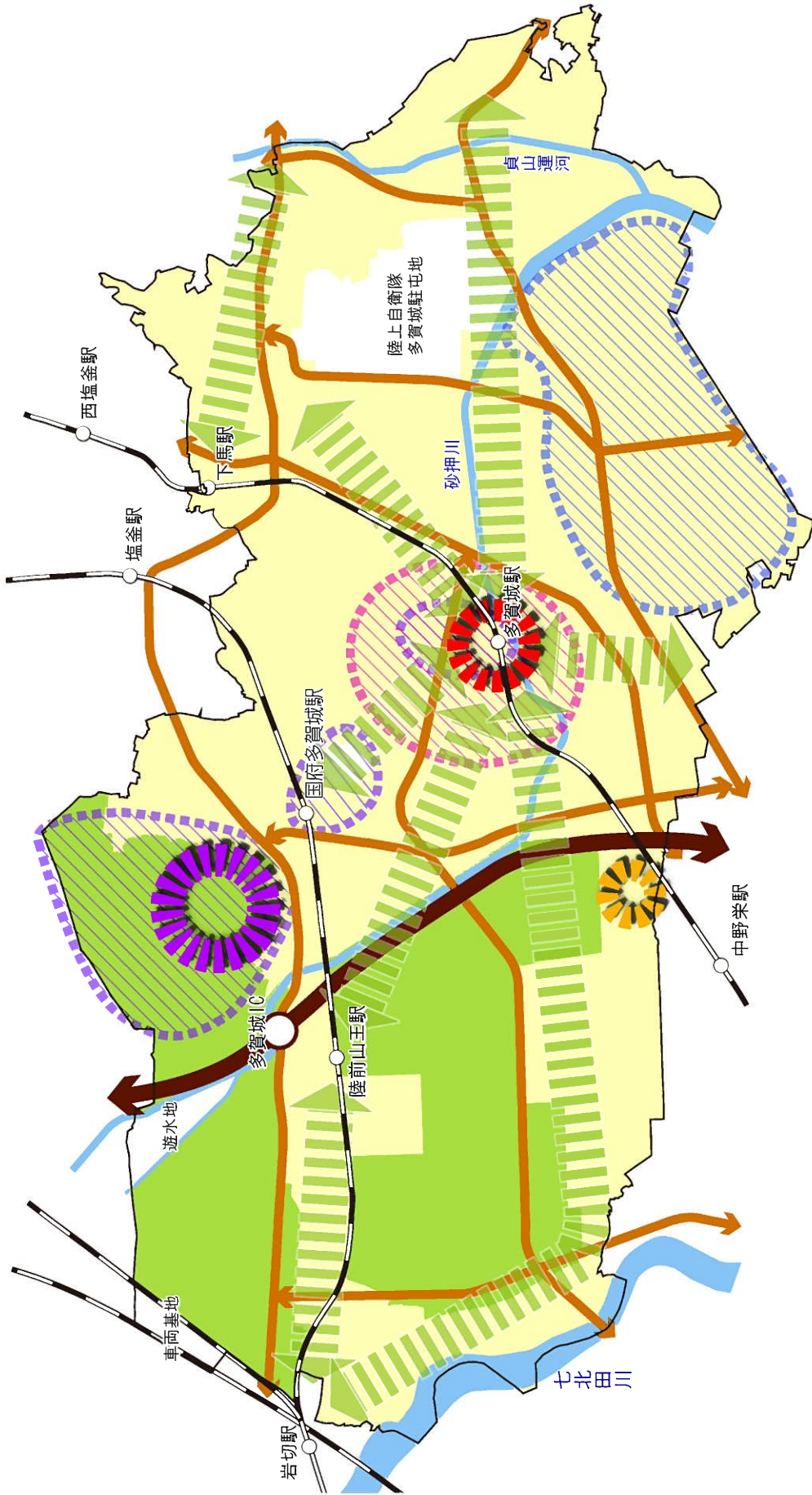
#### ■歴史・レクリエーション拠点

特別史跡多賀城跡及び中央公園周辺を歴史・レクリエーション拠点として位置づけます。文化財や歴史的遺構の保存・活用を図るとともに、整備したスポーツレクリエーション機能等を官民連携事業（Park-PFI）を活用しながら、市内外の人々が本市の歴史や文化、スポーツ等を楽しめる拠点の形成を図ります。

#### ■防災復興支援拠点

八幡字一本柳地区を防災復興支援拠点として位置づけます。当該拠点は、頻発化・激甚化する自然災害への備えとして、災害物資の備蓄や支援物資の受け入れといった復興支援機能の確保を図ります。

【将来都市構造図】



凡 例					
	都市拠点		中心市街地エリア		公共交通軸
	防災復興支援拠点		産業エリア		広域交通軸
	歴史・レクリエーション拠点		歴史・文化エリア		主要交通軸
			市街地ゾーン		
			農地・樹林地ゾーン		

# IV 分野別方針

## 1. 土地利用の方針

---

### 1-1. 基本的な考え方

#### ■中心市街地の活性化と計画的な土地利用の推進

多賀城駅周辺は、本市の玄関口として位置づけ、市民の便利な生活を支え、市内外の人々の交流を促すために、活性化を図ります。

こうした都市的土地利用と自然的土地利用とが調和した良好な市街地の形成を進めていくため、今後も現在の区域区分を基本としますが、社会情勢の変化や要請等に応じて、区域区分の見直しを行う場合には、これらの調和に配慮しながら、計画的な土地利用を図ります。

市街化区域では、現在の用途地域を基本としながら、土地利用の方針に基づき、必要に応じた見直しを行い、土地利用の適正な規制誘導を図るものとします。

なお、まちづくりに関する地域の取組において地域地区の指定・変更の意向がある場合には、都市計画提案制度を活用した指定変更を検討していきます。

また、それぞれの地区により良好な居住環境の創出を図る必要がある場合には、地区住民との合意に基づいて地区計画制度等を活用し、個々の土地利用や建物の形態・意匠等について、規制誘導を図ります。

#### ■地域の特性を活かした良好な市街地の形成

個性や魅力にあふれ、住むことに誇りや喜びを感じられるまちを目指し、本市を特徴づける歴史、文化等の地域の特性を活用した市街地の形成を図るとともに、居住環境の改善を進め、市民が快適に暮らし続けることができる良好な市街地の形成を図ります。

#### ■農地や樹林地と調和した土地利用の形成

本市では、限られた市域の中に、良好な農地や自然豊かな樹林地が分布しています。人口減少の進行を踏まえ、これまで築いてきた既存ストックを活かしたより良い定住環境の形成に向けて、農地や樹林地と調和した良質な市街地の形成を図ります。

## 【コラム：都市計画提案制度とは】

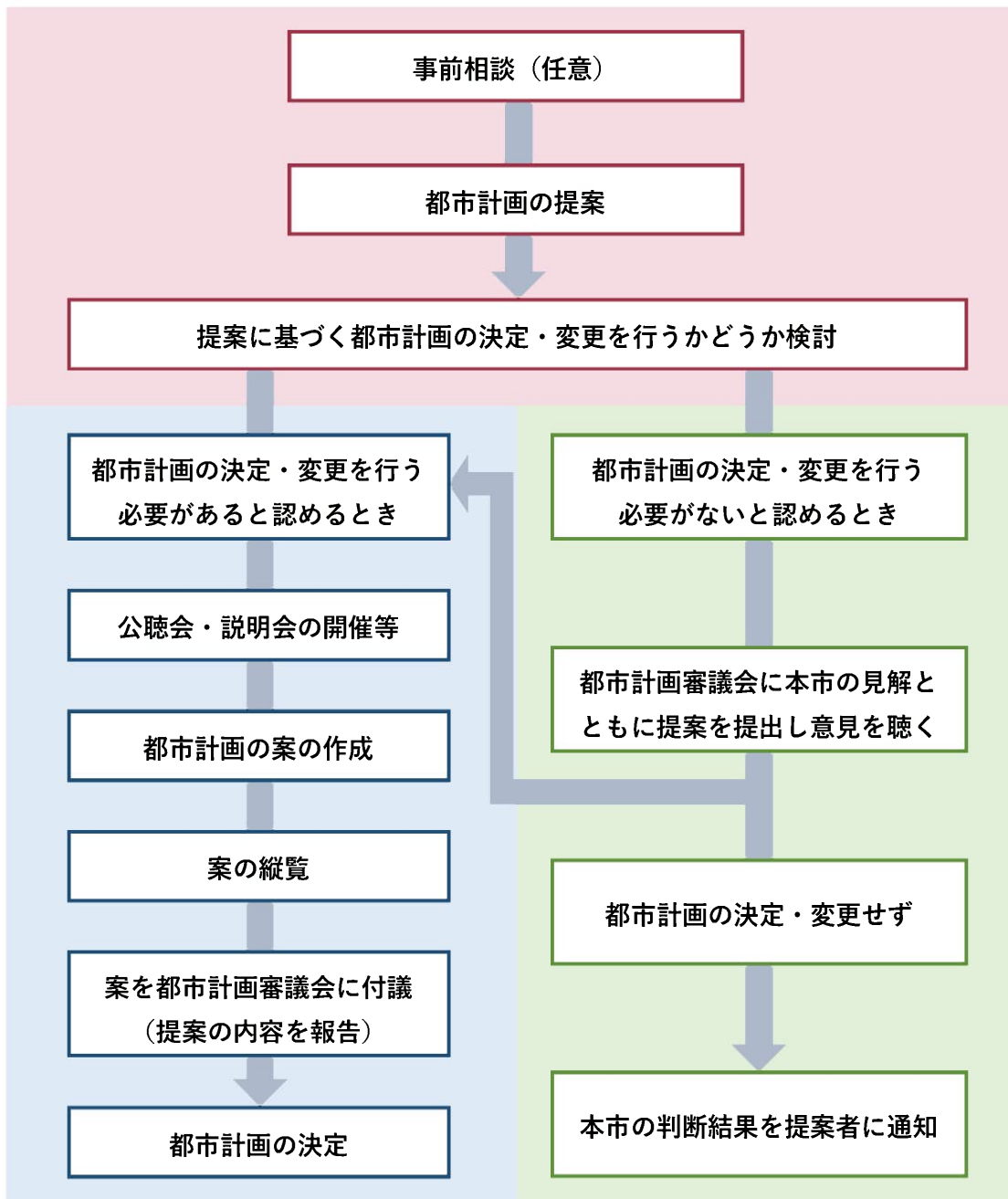
### 1. 都市計画提案制度の概要

都市計画提案制度は、都市計画法と都市再生整備措置法に基づく制度です。

都市計画法に基づく提案制度は、まちづくりに対する地域の取組等を都市計画に反映させるもので、また、都市再生特別措置法に基づく提案制度は、民間の力を最大限に活用して、都市再生の核となる都市再生事業を推進するものです。

本市では、これらの制度を活用しながら、きめ細かなまちづくりを進めていきます。

### 2. 手続きフロー





## 1-2. 市街化区域

### (1) 住居系土地利用

#### ○良好な居住環境を有する住宅地の維持・形成

低層戸建住宅が多く立地する専用住宅地では、引き続き、住宅のほか日常生活に必要な施設が立地する住宅地の維持・形成を図ります。また、住宅を主体としながら、商業施設や公共施設等が併存する一般住宅地では、今後も、居住環境との調和を図りながら多様な用途が共存する住宅地の維持・形成を図ります。

#### ○地域の特性に応じた良好な住宅地環境の創出

質の高い住宅地の形成に向け、地域の特性を活かした統一感のある美しい街並みや緑豊かな居住空間の形成を図るとともに、特別史跡多賀城跡周辺や山王・南宮地区等の歴史的建造物が多く残る地区では、歴史、文化資源と調和した住宅地の維持を図ります。

#### ○未利用地の宅地化促進

限られた土地を有効に活用し、まとまりある市街地を形成するため、市街地内に残る未利用地については、必要な基盤施設を備えた宅地開発の誘導により、宅地化の促進を図ります。

#### ○歴史・文化の研究・発信機能の維持・充実

多賀城駅や国府多賀城駅に近接して立地する各種文化施設等について、多賀城の歴史・文化を調査・研究・発信する機能の維持・充実を図ります。

### 主な施策の方針

- ・良好な住宅地環境を有する地区では、地区計画制度の運用により良好な住居環境の維持を図ります。
- ・宅地開発が行われる場合には、適切な土地利用の規制誘導を行います。
- ・良好な景観を有する地区では、景観法等を活用して、景観の保全を検討します。
- ・歴史、文化資源を有する地区では、多賀城跡周辺の整備について本市が実施する復元工事の推進を図ります。

## (2) 商業系土地利用

### ○本市の玄関口に相応しい中心商業地の形成

本市の玄関口に相応しい商業地の形成に向け、都市拠点となる多賀城駅周辺については、商業施設、業務施設のほか、多くの人が集まり、商業地の形成に資する文化施設、医療・福祉施設等の機能が集積する中心商業地の形成を図ります。さらに、市内外の多様な世代の交流を促すため、公共及び民間の施設を利活用した交流の機会の創出に努めます。

### ○地域の生活の中心となる商業地の維持

日常的に利用できる小売、飲食等の商業施設等が立地し、地域生活の中心となる地区については、近隣住民等の暮らしやすさを確保するため、引き続き、良好な商業地の維持を図ります。

### ○幹線道路の利便性を活かした商業地の維持

(都)一国幹線(国道45号)や(都)八幡築港線(産業道路)をはじめとする主要幹線道路等の沿道に発展した商業地については、引き続き、交通利便性を活かした商業施設、サービス施設、業務施設等の維持を図ります。また、宅地開発が行われる場合には、良好な市街地が形成されるように適切な規制・誘導を行います。

#### 主な施策の方針

- ・多賀城駅周辺土地地区画整理事業及び多賀城駅北地区第一種市街地再開発事業により整備した図書館、子育てサポートセンター等の施設について、多様な世代の市民や来訪者の交流の拠点として利活用を図ります。
- ・多賀城駅周辺では、市の玄関口に相応しい魅力的な景観形成に向け、駅前広場や道路といった基盤施設の維持・活用を進めます。
- ・宅地開発が行われる場合には、適切な土地利用の規制誘導を行います。

## (3) 工業系土地利用

### ○本市の産業・雇用を支える産業地の維持・形成

臨海部の工業専用地及び工業地については、基盤施設や緑豊かで良好な就業環境の維持により、多くの企業に選択される魅力ある工業地の維持を図ります。

工業地については、併存する住宅との調和を図りながら、工場等の立地を促進します。

#### 主な施策の方針

- ・街路樹、植栽帯等、公共施設における緑の維持を図ります。
- ・開発行為等が行われる場合には、宮城県の開発指導要綱等に基づき、適切な土地利用の規制誘導を行います。
- ・包括連携協定を活用し、民間と本市がそれぞれの特性や資源を活かした緑の創出に向けた取組を推進します。

## 1-3. 市街化調整区域

### (1) 農地

#### ○優良な農地の保全

本市の西部及び北西部に広がるまとまった優良農地については、今後とも、農地の保全により市街地の拡大を抑制することを基本としながら、都市計画道路等の整備推進にあわせて、必要に応じて土地需要に対応した土地利用への転換を検討します。

#### 主な施策の方針

- ・農用地区域等の制度を活用し、優良農地の保全を図ります。

### (2) 樹林地

#### ○歴史的風致を形成する樹林地の保全と活用

特別史跡多賀城跡に広がる樹林地については、史跡と一体となって歴史的風致を形成していることから、その保全を図ります。また、身近に自然や歴史に親しむことができる場として活用を図ります。

#### ○歴史・文化を発信する拠点機能の活用

特別史跡多賀城跡附寺跡等の歴史的遺構や文化財の保存・活用を図り、市民の誇りとして、また、本市を代表する観光拠点として活用を図ります。さらに、本市固有の資源の再発見とブラッシュアップを支援し、本市ならではの観光の創出を図ります。

#### 主な施策の方針

- ・特別史跡多賀城跡附寺跡と一体となった樹林地については、現行の法規制等に基づき、保全や適切な維持管理及び利活用を促進します。
- ・史跡の利活用や継承を担う、ボランティアガイドや地元協力団体の高齢化による担い手不足等の課題解決に向けた取組の方向性を検討します。
- ・市民参加により、草花の植樹や里山体験学習等、緑地や草地、樹林地の活用に向けた方策を検討します。
- ・本市固有の資源の再発見及びブラッシュアップによる観光の創出を図ります。

## 1－4．土地利用検討地区

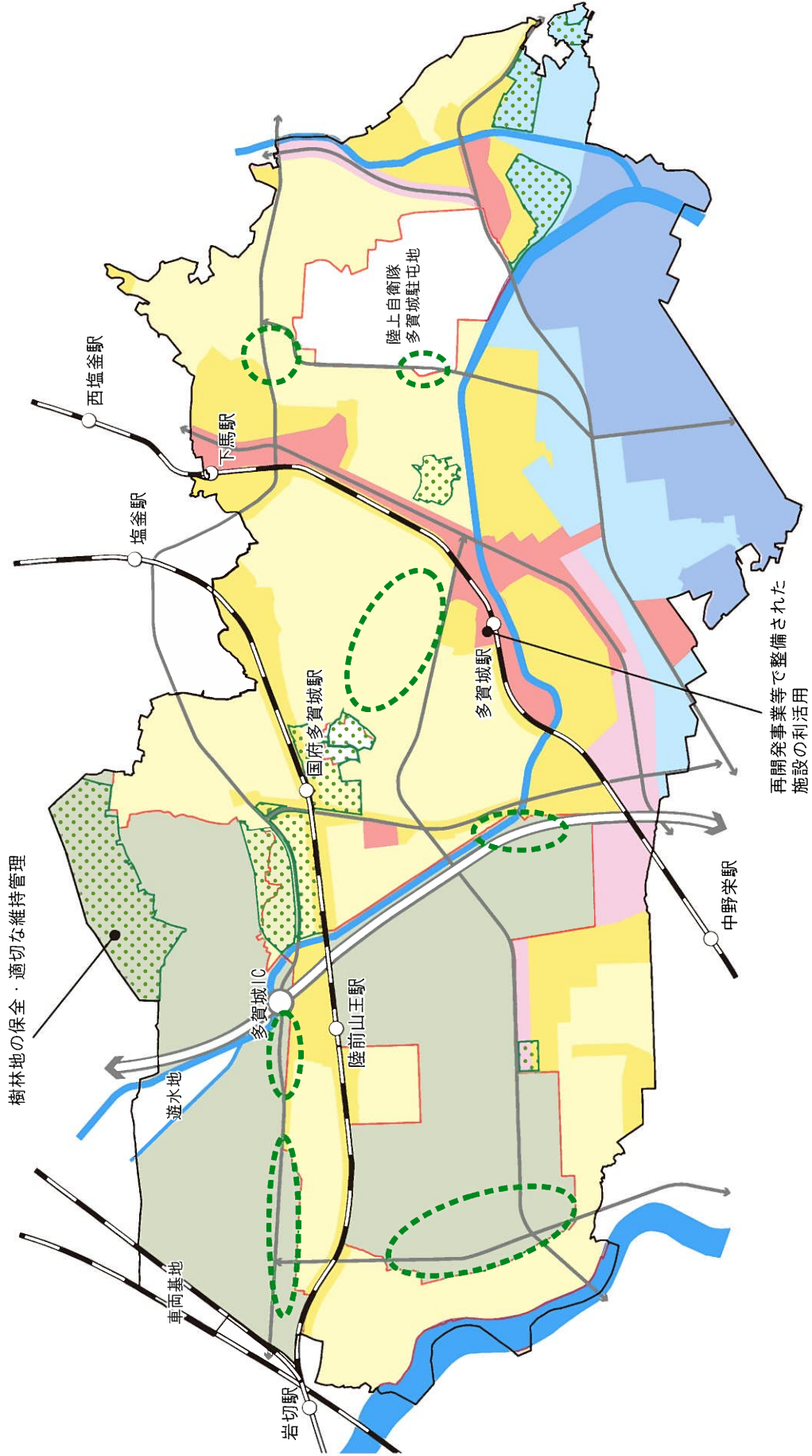
### ○地域地区の見直しも見据えた土地利用の検討

大規模な跡地や空き宅地が生じた場合には、都市の将来像を実現するための戦略的な土地利用を検討するとともに、必要に応じて用途地域の変更や地区計画の指定等を検討していきます。

### ○交通利便性を活かした土地利用の検討

インターチェンジ周辺や幹線道路沿道等の交通利便性の高い地区については、宅地需要等を踏まえた土地利用を検討します。また、宅地開発が行われる場合には、良好な市街地が形成されるように適切な規制・誘導を行います。

【土地利用の方針図】



凡 例

	土地利用検討地区		専用住宅地		沿道型商業・業務地		工業地		大規模公園・緑地
	一般住宅地		商業・業務地		工業専用地区		農地・樹林地		市街化区域

再開発事業等で整備された施設の利活用

樹林地の保全・適切な維持管理

## 2. 道路・交通体系の方針

### 2-1. 基本的な考え方

#### ■安全で便利な都市活動と産業活動、交流を支える道路網の構築

安全で便利な都市活動と活発な産業活動、市内外との交流促進を支えるため、道路網の構築を進めるとともに、計画的かつ適切な維持管理を図ります。また、市民生活の安全性を高めるため、道路が有する防災面の機能の強化を図ります。

#### ■人にも環境にもやさしい交通体系の構築

将来的な少子高齢化の進行を見据えて、交通弱者が安全で便利に移動できる交通環境を整えるとともに、環境にやさしく脱炭素社会の実現に資する交通手段の利用を促進します。駅やバス停が遠い、公共交通の空白地域の利便性向上、歩行者ネットワークの形成、自転車利用の促進を図ります。

### 2-2. 道路の方針

#### (1) 幹線道路

##### ○交通需要及び路線機能を踏まえた体系的な幹線道路網の構築

計画的に整備が進められてきた本市の幹線道路網について、人や物の円滑な移動を支えるため、適正な維持管理・更新を図ります。また、未整備区間の整備を推進し、周辺の市町との連携、交流の促進に向けた道路網の強化を図ります。

#### 主な施策の方針

- ・広域的な交通需要に対応する主要幹線道路として位置づけられる都市計画道路の未整備区間の整備と整備済み区間の計画的な維持管理を関係機関に働きかけます。
  - ・(都)八幡築港線(産業道路)
  - ・(都)一国幹線(国道45号)
  - ・(都)玉川岩切線(県道泉塩釜線)
  - ・(都)下馬東宮線(塩釜七ヶ浜多賀城線)
  - ・(都)大代七ヶ浜線(塩釜七ヶ浜多賀城線)
- ・市内及び隣接市町間の交通需要に対応する都市幹線道路として位置づけられる都市計画道路については、適切な維持管理を進めるとともに、未整備区間の整備を推進します。
  - ・(都)多賀城跡仙台港線
  - ・(都)笠神八幡線
  - ・(都)南宮北福室線
  - ・(都)新田高崎線
  - ・(都)高崎中央線
- ・早期に措置を講ずべき状態の橋梁については、長寿命化計画に基づき計画的に補修工事を実施し、長寿命化を図りながら維持管理を進めます。

## (2) 生活道路

### ○安全性の確保及び防災機能の強化

生活道路は、各宅地に接続する生活道路として、市民の生活に密着する道路であることから、日常的な交通安全上の問題の解消を図ります。また、生活道路の幅員拡幅により、災害時における緊急車両の通行や住民の避難を容易にする等、防災機能の確保を図ります。

#### 主な施策の方針

- ・通過交通の多い路線や交通危険性の高い交差点、通学路等では、交通安全対策を進めます。
- ・定期的な道路パトロールを継続し、通年にわたり道路安全管理を実施します。
- ・本市の指導要綱路線は、建築行為等の発生機会を捉えて幅員拡幅を実施します。

## 2-3. 歩行者・自転車道の方針

### ○水と緑を活かした歩行者ネットワークの形成

通勤、通学等の日常生活における徒歩利用の促進のほか、散歩、ジョギングの増加に対応して、市域全体での歩行回遊性を高めるため、身近や生活道路の整備を軸にしながら、公園、緑地、砂押川及び七北田川の堤防沿い、歴史・文化資源を結ぶ歩行者ネットワークの形成を図ります。

また、自転車利用の利便性と安全性の向上を図ります。

### ○人にやさしい歩行環境の充実

歩行者の安全性、快適性に配慮し、安心して移動できる歩行環境を確保するため、道路や交通環境の充実を図ります。

#### 主な施策の方針

- ・砂押川の堤防等を活用した歩行者道の適切な維持管理に努めます。
- ・七北田川については、散策道として利用されている堤防道路やレクリエーション空間の適切な維持管理に努めます。
- ・幹線道路の整備を進め、歩道の連続性を確保します。
- ・歩行者と自転車双方の安全性確保に向け、既存道路の利用状況や安全性の検証を図り、自転車通行帯の整備の必要性を検討します。
- ・重点的・戦略的なバリアフリー環境の形成に向け、移動等円滑化促進方針又はバリアフリー基本構想の策定を検討します。
- ・バリアフリー化をはじめとするユニバーサルデザインに配慮した歩行空間、交通安全施設、観光客にも分かりやすい案内標識の継続的な整備や維持管理に努めます。
- ・史跡のまち多賀城に相応しいデザインの修景施設の設置により、快適な歩行者空間の整備を進めます。

## 2-4. 公共交通の方針

### ○公共交通の利便性向上と利用促進

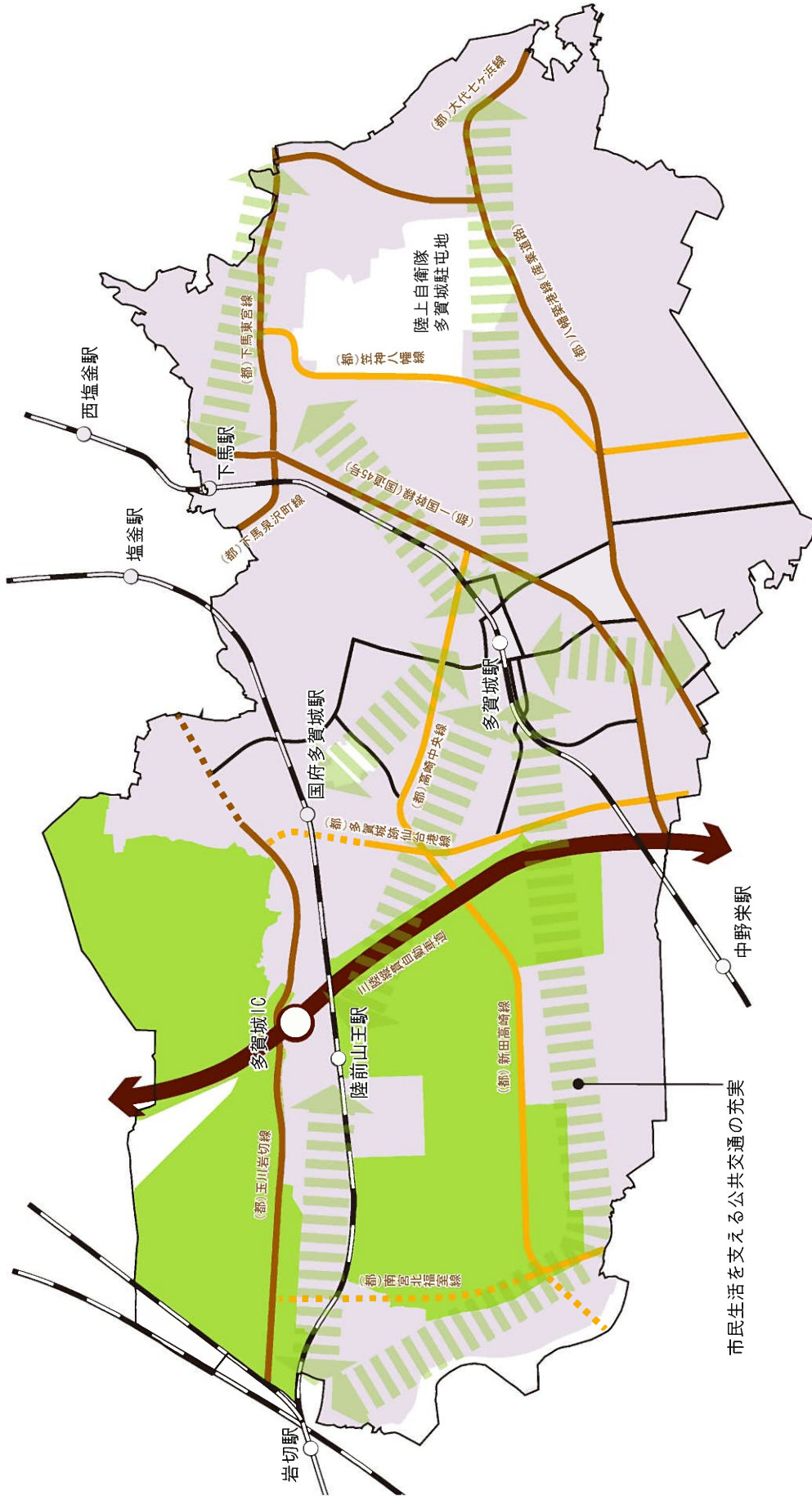
移動の拠点となる、駅が半径1km利用圏内に7駅（多賀城駅、下馬駅、中野栄駅、陸前山王駅、国府多賀城駅、岩切駅、塩釜駅）あり、その間を多賀城市、塩竈市、七ヶ浜町の各市町のコミュニティバスが運行している公共交通機関を活かした、利便性が高く使いやすい公共交通の利用環境をつくります。

### 主な施策の方針

- ・本市の交通利用特性や利用実態を踏まえ、最適な公共交通のあり方を検討するとともに、鉄道との乗り継ぎを考慮した、バスダイヤ・バスルートの見直しを検討します。
- ・駅やバス停が遠い公共交通の空白地域の新たな公共交通のシステムを検討します。
- ・多賀城駅及び駅前空間の適切な維持管理を実施し、円滑な移動や市民が集う憩いの場としての施設の利用を促進します。
- ・駅周辺での放置自転車対策と、駐輪施設の適切な維持管理を実施します。
- ・観光客が目的地によってJR東北本線とJR仙石線を混乱なく利用できるよう、案内表示の改善等を関係機関に要請します。



【道路・交通体系の方針図】



凡 例

	主要幹線道路 (整備済)		都市幹線道路 (整備済)		その他幹線道路 (整備済)		公共交通軸
	主要幹線道路 (未整備)		都市幹線道路 (未整備)		その他幹線道路 (未整備)		広域交通軸
							市街地

## 3. その他都市施設の方針

### 3-1. 基本的な考え方

#### ■生活環境の向上に向けた公園・緑地の充実・維持

公園・緑地は、市民の遊び、憩い等の場であるとともに、地域や日常生活にうるおいを与える空間として、また、災害時の一時避難場所としての地域防災の向上といった多機能性も有していることから、市民の生活を支える重要な基盤施設として適切な維持管理に努めます。

#### ■生活環境の向上、安全な生活を支える治水対策の推進

健康で快適に暮らせる生活環境の向上を図るため、汚水施設の適切な維持管理に努めるとともに、洪水、豪雨等による水害に対する安全性を高め雨水を適切に処理する公共下水道の整備のほか、雨水の流出を抑制する総合的な治水対策を図ります。また、老朽化が進行するインフラ施設について、長期的な視点に立った対策に取り組んでいきます。

#### ■安定した住生活を支える住宅供給(市営住宅)

住宅に困っている人が、安定した住生活を送ることができるよう、適正な戸数の公営住宅の確保を図り、住生活の安定化と社会福祉の増進に努めます。

### 3-2. 公園・緑地の方針

#### ○市民需要及び観光需要に対応した公園配置、整備

県内公園では味わうことができない本格的「都市型スポーツエリア」による新たな多賀城ブランドを創出し、「多賀城南門」・「あやめ園」に並ぶ中央公園の新たな顔、「都市型スポーツ」による東北随一の複合的な交流拠点に相応しい、本市独自のスポーツツーリズムを展開した新しい人の流れの創出等による公園の利用促進や魅力向上を目的として、官民連携事業の導入による公園整備に取り組みます。民間事業者による宅地開発が行われる場合も、既存公園の配置状況や市民需要を勘案して、公園の適正な配置、整備を図ります。

#### ○機能維持のための適切な維持管理

日常的な機能に加え、災害時における機能が十分発揮できるよう、本市と公園利用者及び公園愛護団体が適切な維持管理に努めます。

#### 主な施策の方針

- ・中央公園の未整備エリアについて、官民連携事業（Park-PFI）の導入を進めます。その他の未整備の都市計画公園については、民間事業者との積極的な連携を図る等、中央公園整備と並行しながら検討を進めます。
- ・官民連携事業（Park-PFI）の検討にあたっては、サウンディング調査、市民ニーズ及び観光需要の把握を行い、利用者のための公園施設の整備・活用を進めます。
- ・民間事業者による宅地開発が行われる場合には、多賀城市開発指導要綱整備基準に基づき協議・指導を行い、適正な公園整備を促進します。
- ・公園施設長寿命化計画に基づき、予防保全的管理により適切な維持補修や機能更新に取り組めます。
- ・地域に密着した公園については、地域住民による愛護活動に加え、企業による花壇整備の支援に向けて、制度改定を検討します。

### 3-3. 公共下水道の方針

#### ○安全で快適な暮らしの実現に向けた機能強化・維持管理

市民の安全で快適な生活環境を実現するとともに、大雨による浸水被害の軽減を図るため、老朽化が進む下水道施設の機能強化、適正な維持管理・更新を図ります。

#### 主な施策の方針

- ・雨水の浸水被害がみられる地域については、下水道（雨水）の整備の検討を進めつつ、市民自らが生命と財産を守るための行動が取れる情報発信について検討します。
- ・雨水施設ストックマネジメント計画に基づく維持管理・更新を進めます。
- ・宅地における雨水流失抑制を支援し、雨水流出による浸水被害の軽減に繋がります。

### 3-4. 公営施設の方針

#### ○施設の適正な修繕・改修

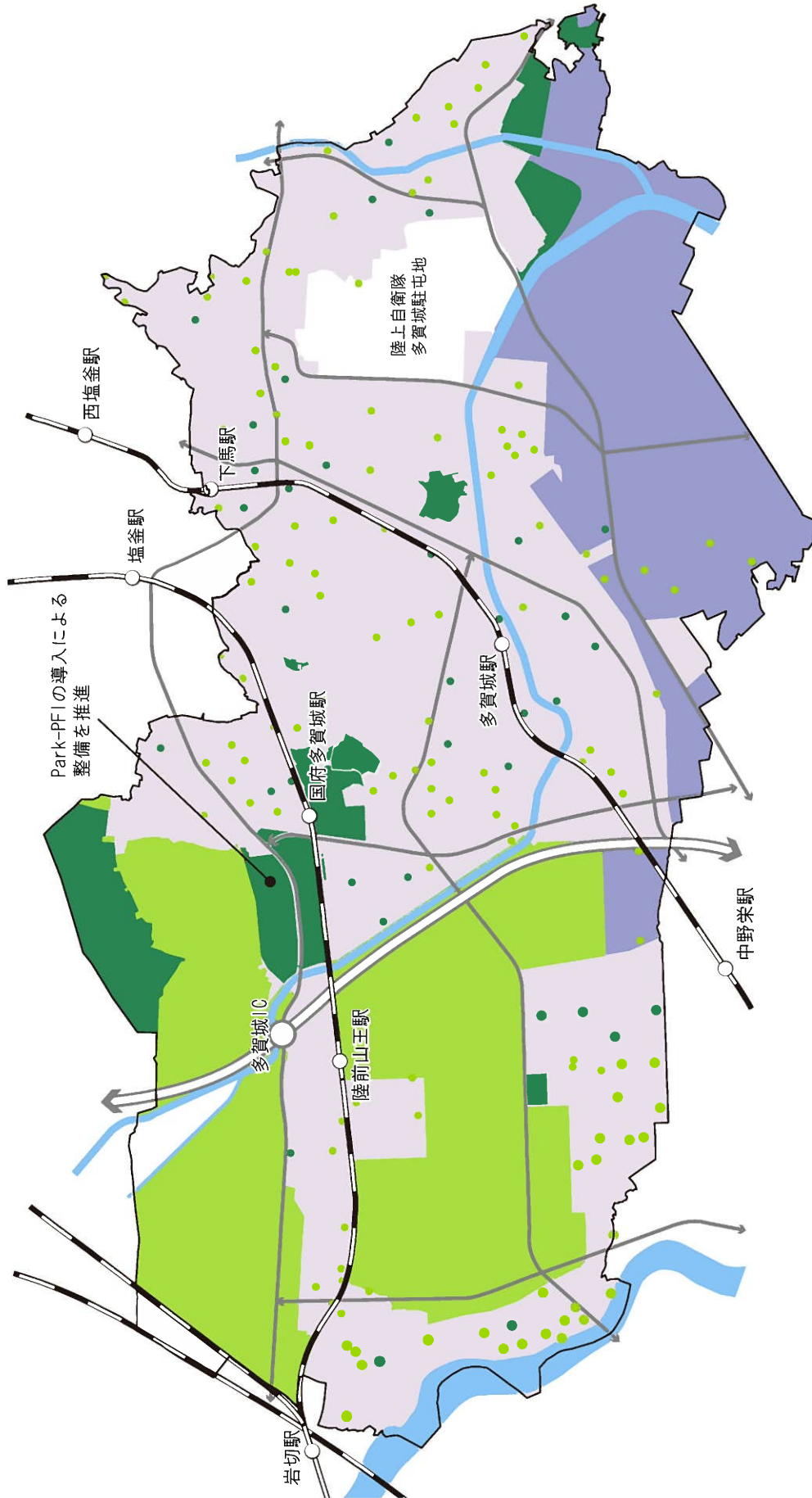
公営住宅については、将来の需要見通しを踏まえながら、適正な戸数の維持を図るとともに、施設の老朽化に配慮した修繕・改修を検討します。

その他公共施設については、老朽化に伴う建替等において、バリアフリーに配慮した内容を検討します。

#### 主な施策の方針

- ・市営住宅ストック総合活用計画や公営住宅等長寿命化計画に基づき予防保全的管理の視点で維持管理・修繕等を進めます。
- ・公共施設の老朽化に伴う建替や大規模改修の際には、バリアフリーに配慮した施設となるよう建替・改修内容を検討します。

【その他施設の方針図】



凡 例

●	都市計画公園・緑地	●	その他身近な公園	■	住居・商業系市街地	■	工業系市街地
---	-----------	---	----------	---	-----------	---	--------

## 4. 景観・都市環境の方針

### 4-1. 基本的な考え方

#### ■個性や魅力を実感できる美しい景観形成

本市ならではの個性や魅力を高め、美しい景観を創出するために、多賀城市景観計画に基づき、歴史的資源の保全や歴史的街並みの整備を実施するとともに、都市的景観の形成には市民、事業者及び行政がそれぞれの役割を果たしながら互いに連携して良好な街並みの形成を図ります。

特に、歴史や文化を生かした景観形成には、地域住民の理解と協力が必要不可欠であることから、様々な歴史的資源と調和した品格ある景観を大事にして、次の時代へと受け継ぐことに対する市民意識を高める取組を進めます。

#### ■緑豊かなうるおいある都市環境の創出

市街地には、公共施設や公園における緑のほか、街路樹、生け垣、そして史跡の周辺等に緑が確保され、さらに、市街地を緩やかに流れる砂押川、七北田川及び野田の玉川が、市民に憩いやうるおいのある景観をもたらしています。また、緑は二酸化炭素を吸収・固定化する機能を有しており、脱炭素社会の実現に貢献するものです。このような既存の資源、特性を活かしながら、質の高いより良い居住環境の形成及び都市の脱炭素化を図るために、市街地内の貴重な水辺と緑の保全・活用を進め、緑豊かなうるおいある都市環境の創出を図ります。

### 4-2. 景観の方針

#### ○景観重点区域における良好な景観づくり

多賀城市景観計画における景観重点区域では、建物の形態や意匠の制限、広告物の制限、修景整備、緑地の保全等により、史跡景観に配慮した街並みの形成や田園景観の保全等、歴史的風致に配慮した景観形成を図ります。

#### ○その他区域での良好な景観づくり

重点区域以外においても、景観の保全、形成に対して市民需要の高い区域や市民の原風景となっているような区域については、良好な景観及び景観資源の保全や景観を阻害する要因への対応を図ることで、良好な都市景観の形成を図ります。

#### ○市民参加による景観づくり

多賀城市景観計画に基づき、市民参加による良好な景観形成を進めるとともに、景観資源の保全や活用に対する市民活動を支援します。

#### 主な施策の方針

- ・良好な景観を有する地区では、多賀城市景観計画に基づき、景観の保全を図ります。
- ・歴史・文化資源を有する地区では、歴史的風致維持向上計画に基づく環境整備を進めます。
- ・歴史、文化資源を有する地区では、本市が実施する復元工事の推進を図ります。
- ・公共施設において、敷地内の緑化を進め、景観に対する意識を高めます。

- ・工業系土地利用において、街路樹、植栽帯等の公共空間における緑の創出に取り組みます。
- ・樹林地、公園、緑地、砂押川等を結ぶ道路及び沿道敷地の緑を維持します。
- ・生垣の設置や花壇づくりといった市民の緑化活動を促進します。

### 4-3. 都市環境の方針

#### ○市街地内の緑の保全

本市の市街地の緑は、市民の暮らしにうるおいをもたらす貴重な資源となっています。このため、保安林や特別緑地保全地区等の法制度の適用等も視野に入れながら、積極的に身近な緑の保全と活用を図ります。

#### ○緑豊かな市街地の形成

緑豊かな市街地を形成するために、民間と本市がそれぞれの特性や資源を活かして公共施設等や民有地の緑化等の取組により、緑の保全だけでなく、新たな緑の創出を図ります。

#### ○河川空間を活用した水と緑のネットワークの形成

緑の連続性を確保するため、砂押川を軸に、北部に広がる樹林地、市街地内の公園、緑地を結び、身近に豊かな自然環境と親しめる水と緑のネットワークの形成を図ります。

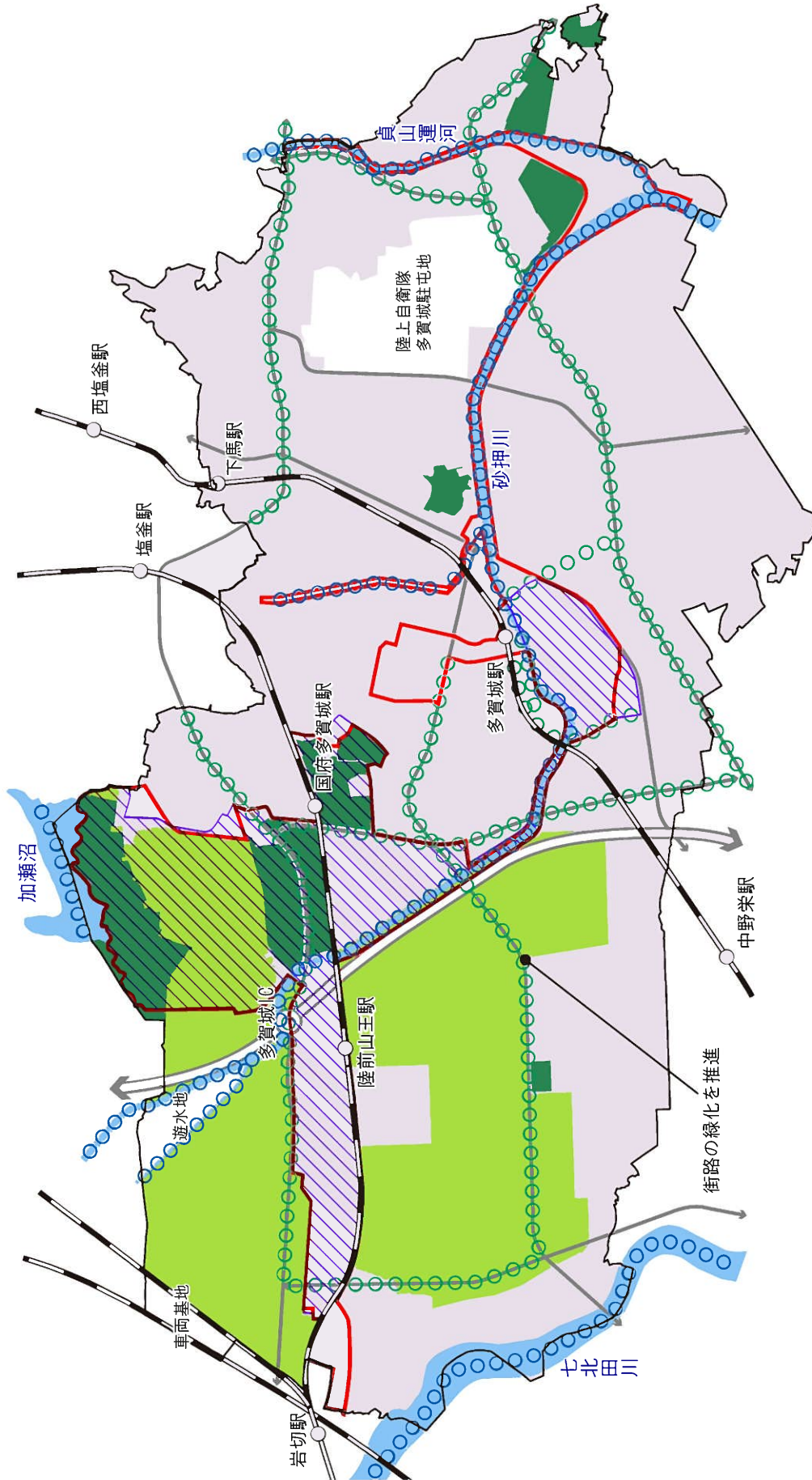
#### ○環境負荷に配慮した取組の促進

2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを実現するため、公共施設や家庭における省エネルギー・再生可能エネルギーの導入促進を図ります。

#### 主な施策の方針

- ・継続的な維持管理により、街路や河川等の緑化保全を進めます。
- ・公共施設において、敷地内の緑化を進め、景観に対する意識を高めます。【P47 再掲】
- ・生垣の設置や花壇づくりといった市民の緑化活動を促進します。【P48 再掲】
- ・工業系土地利用において、街路樹、植栽帯等の公共空間における緑の創出に取り組みます。【P48 再掲】
- ・工業系土地利用において、緑の創出に向けた企業等との緑化活動のあり方を検討します。
- ・樹林地、公園、緑地、砂押川等を結ぶ道路及び沿道敷地の緑を維持します。【P48 再掲】
- ・公共施設において、省エネルギー設備への更新や再生可能エネルギー設備の導入を検討します。
- ・家庭や企業等における省エネルギー設備や再生可能エネルギー設備の導入促進に向け、情報提供等に取り組みます。

【景観・都市環境の方針図】



凡 例

	大規模公園・緑地		景観重点区域		水のネットワーク
	市街地		歴史的風致維持向上地区		緑のネットワーク
	農地・樹林地				

街路の緑化を推進

## 5. 都市防災の方針

### 5-1. 基本的な考え方

#### ■防災・減災機能の強化

震災で得られた教訓を活かし、食糧や資機材等を分散備蓄し、市民が安全に一時避難できる場所として防災拠点機能の維持・確保を図るとともに、市民生活の安全を高めるための避難路や避難場所の確保、都市施設や市街地の防災・減災機能の強化等を図ります。

#### ■防災・減災意識の向上と地域防災力の強化

災害時における迅速な初動対応や救助活動を行うためには、市民一人ひとりの「心」と「物」の備え、地域のつながりや支え合いが重要であることから、市民の防災意識の向上を図るとともに、市民・企業・行政が一体となった地域防災力の強化を図ります。そのために、市民自らが命と財産を守る行動を取れるような情報発信等、仕組みづくりを進めていきます。

### 5-2. 防災・減災機能の強化

#### ○避難路及び緊急輸送道路の確保

災害時において、円滑な避難や物資の輸送が可能となるように、南北方向を中心に幹線道路網の確保を図るとともに、避難案内板の設置を進めます。また、生活道路については、防災面での機能が確保できるように改善を図ります。

#### ○災害時における都市施設の機能確保

災害時においても、道路、公園、下水道等の都市施設の機能が確保されるよう、耐震性の向上を図る等、適切な維持管理を図ります。

#### 主な施策の方針

- ・倒壊危険性の高いブロック塀の除却を促進します。
- ・狭あい道路は、社会資本整備総合交付金を活用しながら、建築行為等の発生機会を捉えて幅員拡幅を実施します。
- ・木造住宅の耐震化を促進します。
- ・雨水の水路等の定期的な除草や泥上げを実施し、通水能力の維持に努めます。
- ・道路のパトロールを定期的に行い、豪雨や地震時は緊急に道路、法面の点検を実施し、危険と判断した場合は、通行止め等の措置を実施します。
- ・急傾斜地の崩壊による被害を未然に防止するため、県と協力し平常時から定期的にパトロールを実施するとともに、危険性について市民への情報発信を実施します。
- ・豪雨や地震時には、急傾斜地のパトロールを実施し、実態把握に努め、危険と判断した場合は、地域住民に避難を呼びかけます。



### 5－3. 地域防災力強化の方針

#### ○市民の防災・減災意識の向上

大規模な災害が発生した際には、自らの生命や財産は自ら守るという自助意識を高めていくために、防災教育の充実、地震及び津波のハザードマップ等の情報発信の取みを進めます。

#### ○自主防災体制の強化

地域の自主防災力を強化するため、地域内でのコミュニティ形成に資する活動、地域防災リーダーの育成、自主防災組織の活動を引き続き支援します。

#### 主な施策の方針

- ・災害発生時に指定避難所及び指定緊急避難場所が円滑に運営することができるよう、引き続き取り組みます。
- ・地域の防災リーダーの育成や、自主防災組織の活動支援を引き続き実施します。